

日本の中小企業Ⅱ

科目ナンバリング ECP-220
選択 2単位

徳増 秀博

1. 授業の概要(ねらい)

中小企業の多くは地方圏に立地し、小規模で多くが大企業の下請的な仕事を行っています。また、地方における市場規模は小さく、景気動向の影響を直接的に受け、経営面で厳しさがあります。従来中小企業の経営理論だけでは必ずしも対応ができなくなっている可能性もあり、多くの分野で経営概念が再考されてきています。また、日本の産業界は、新規の創業やベンチャービジネスなど新しい側面もみられ注目されています。新しい中小企業の経営を考えると、大企業のそれとは大きな違いを感じますが、なにが大企業と異なるのか、その理由は何なのか。単に企業規模の差が経営の差として現れるのかといった疑問も出てきます。

講義では、中小企業と大企業の関係、都市と地方の中小企業の差異、ものづくりにおける製品のイノベーションやグローバル化への取り組みなどの個別企業の事例、トピックスを通して中小企業の経営に対する理解を深めます。

また、外部講師を招聘して、企業の実態を直接聴くことで、中小企業の経営手法等を学ぶことができます。

2. 授業の到達目標

- ・都市と地方の中小企業を比較することで、企業集積力の強みと弱みを修得します。
- ・中小企業の実態を理解し、その課題と新たな中小企業モデルを修得します。
- ・中小企業のイノベーションとグローバル化について修得します。
- ・ベンチャー企業の経営と発展経過を理解して、ベンチャー企業育成について修得します。

3. 成績評価の方法および基準

2回の課題レポート(40%)提出と期末試験(60%)で評価します。また、毎回の授業で復習小テストを実施しますので、それによる評価も参考にします。

評価内容については、下記の通りです。

①レポート評価—到達目標から課題を出題します。評価は、出題項目の理解、関連文献内容、自己の意見と結論を総合的に評価します。

②試験の評価—試験項目は授業内容から出題しますので、授業内容の理解、到達目標に対して評価をします。

なお、評価の詳細は、最初の授業において説明します。

4. 教科書・参考文献

教科書

植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関 智宏・田中幹大・林 幸治〔著〕『中小企業・ベンチャー企業論』 有斐閣

参考文献

渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫〔著〕『21世紀中小企業論』第3版 多様性と可能性を探る 有斐閣
加藤秀雄〔著〕『日本産業と中小企業』 新評論

5. 準備学習の内容

近年、注目されている大学発ベンチャー企業について、その内容(資本金、従業員等を含む)をレポートにまとめてください。また、米国のシリコンバレーで発展した企業について、どのような企業があるのか、さらにその発展経緯を調べてください。その他、新聞やインターネットなどの社会、経済的課題などに関する資料を問題意識を持って読んでいただきたい。さらに参考書の中小企業に関する書物など事前に読み準備しておいてください。

6. その他履修上の注意事項

2回の課題レポート及び毎回の授業で出題される復習小テストは、必ず提出してください。成績に大きく影響しますのでご承知おきください。

7. 授業内容

- 【第1回】 後期の授業の概要(ガイダンス)
- 【第2回】 日本の産業化と中小企業—在来産業と経済発展
- 【第3回】 戦後の経済成長と中小企業(1945～72年)
- 【第4回】 「開廃率の逆転」と「現代の中小企業」(バブル崩壊とリーマンショックまで)
- 【第5回】 中小企業と大企業の問題
(第1回中間レポート出題)
- 【第6回】 地域経済と中小企業(内発的発展と地域経済発展)
- 【第7回】 下請システムとものづくり中小企業
- 【第8回】 日本の下請システムの変化と国際化
- 【第9回】 地域経済と中小企業と工業社会変化と人口問題
- 【第10回】 集積・ネットワークを活かす中小企業と産業集積
(第2回中間レポート課題の出題)
- 【第11回】 地域と共に生きる中小企業(中小企業の性質と地域社会づくり)
- 【第12回】 起業と経済活性化
- 【第13回】 全体を通しての後期授業のまとめ
- 【第14回】 総括及び期末試験
- 【第15回】 (オンライン授業)ベンチャー企業の創造・経営と支援